

平成26年度第3回北海道入札監視委員会 開催結果

日 時 平成27年3月30日(月) 16:00~
場 所 道庁7階 共用会議室B

(委員会次第)

- 1 開 会
- 2 報告事項
（1）平成26年度入札契約執行状況（平成26年12月末）
（2）その他報告事項
- 3 閉 会

平成26年度 第3回北海道入札監視委員会 出席者名簿

委員長	吉岡 征雄
委員	伊勢田 和幸
委員	大野 由夏
委員	蟹江 俊仁
委員	齊藤 揮誉浩
委員	肘井 博行

※五十音順、敬称略

関係各部局出席者

所 属	職	氏 名
農政部農村振興局事業調整課	課長	西山 宰
//	主査	菊池 祐二
//	主任	内村 直樹
水産林務部総務課	主幹	矢本 諭
//	主査	山口 啓二
建設部建設政策局建設管理課	課長	板谷 悟
//	主幹	蛭川 尚哉
//	主幹	早川 友浩
//	主査	北本 幸徳
//	主査	有馬 純生
建設部建築局計画管理課	課長	喜多 睦夫
//	主幹	玉田 甲
//	主査	外山 智意
建設部建築局建築整備課	主幹	阿部 安孝
出納局財務指導課	課長	梅木 克也
//	主査	橋本 ひとみ

事務局

所 属	職	氏 名
総務部行政改革局	次長兼局長	辺見 広幸
総務部行政改革局行政改革課	課長	辻井 宏文
//	主幹	宮澤 宏
//	主査	三浦 哲晃

平成26年度第3回北海道入札監視委員会議事録

1 開会

(事務局)

ただいまから、平成26年度第3回入札監視委員会を開催いたします。

これからの議事の進行につきましては、吉岡委員長にお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

2 報告事項

(1) 平成26年度入札契約執行状況(平成26年12月末)

(吉岡委員長)

まず、報告事項の1番目「入札契約執行状況」についてのご説明願います。

(事務局)

(資料1-1に基づき説明)

(吉岡委員長)

ご質問等ございますか。

(吉岡委員長)

蟹江先生に少し教えていただきたいのですが、先日の新聞報道によりますと札幌市の入札監視委員会と同等の委員会で、抽選の割合が高いなどのご意見を出されているようですが、どのような内容ですか。

(蟹江委員)

毎年、委員会の1年間の成果として意見を取りまとめているもので、特に今年だけが特別だということではございません。細かい内容については、公表されていますが、それに関連してと言いますか、入札契約のデータについてご質問したいと思います。一つは、だいぶ改善はされてきましたけども、過酷なあるいは苛烈な価格競争の時代がしばらく続いて、最近の品確法の改正等を受けて、優良業者を地元で育成しましょう、もう一つは将来的なビジョンを踏まえて言えば、若手の技術者を地域として育てていきたいと思いますところが、大事な骨子と認識しております。今、委員長からもご指摘がありました札幌市の場合は、健全な企業が残れる、競争に勝てるようにすること、それから若手の技術者を活用しているところをもう少し評価していきませんかということを盛り込みました。改めて今日のデータを見させていただいて、感じることの一つは、例えば、資料1の3ページに発注3部の一般競争入札の落札率が出ておりまして、いろいろと積極的に様々な工夫をされて総合評価を行っていると思いますが、一般論として、技術力や工事成績、若手技術者の雇用、障害者雇用の状況など価格以外のものを評価しようとする総合評価の落札率は少し高めになって然るべきところではないかと思っておりますが、この数字を見る限りでは、一般競争入札と差がないどころか少し低いという結果になっている。この辺の結果に特別な背景があるのか、気になるポイントがあるのかというのが一つ目の質問でございます。

もう一つは、この委員会でも度々話題になっていますが、5ページの発注機関別入札・契約実績で、相変わらず地域差が大きくて、十勝・帯広では一般競争入札をした場合の落札率が、札幌も低いですが、他と比べて際だって低いように見受けられます。しばらくこのような状況が続いているというのは存じ上げていますので、このような地域にこそ、他の地域とは違う健全な企業に対する配慮といえますか、総合評価を積極的に入れるとか、

あるいは少しルール変更を考えるなどの対策もそろそろ考えた方がいいのではないかと数字を見る限りでは思います。

この2点について、発注者側のご意見があれば、お伺いしたいと思います。

(吉岡委員長)

この場で答えられるかどうかですが、今日が我々でこの委員会を行う最後となりますので、発注者側の感想的なものでもいいですし、積み残しして次の委員会にお任せするのも失礼かと思しますので、発注者側の悩みでもいいですので、実情としてどうなのでしょう。

(蟹江委員)

総合評価で価格差を逆転するような減少というのは起こっているのでしょうか。この状況だと価格ベースで競争が行われているのかなとも見えますが、せっかくいろいろな評価をしたところでやっぱり価格1位のところが落札しているとなれば、このような数字になりかねないような気もするのですが。

(建設部)

総合評価を導入している工事は、確かに価格だけではなく、いろいろな技術評価をしております。その中で技術評価点が高く、価格的には2番、3番の会社が受注するという事例は、件数は把握していませんが、全道で起きているところでございます。

(蟹江委員)

比率的には大きくないのかもしれないが、そういうこともあるということですか。

(建設部)

そういうこともあります。

また、地域の担い手につきましては、品確法の改正を受けまして、今年度から資格審査の段階で担い手という項目を新設しまして、企業評価の点でも行っております。また、総合評価におきましても、新年度、27年度から、これまでは選択項目でそういうのがあったのですが、計画タイプⅡ、Ⅲや実績タイプについては、必須項目にするということで新たに組み込んで参りたい。

(蟹江委員)

新年度からは、若年技術者の登用を促進するような評価の仕方が盛り込まれる予定ということですか。

(建設部)

そのようにしたいと考えております。

(蟹江委員)

もう一つの質問は？

帯広は、いつも他地域に比べると相当利益をギリギリまで削っているように見えていて、この傾向はだいぶ長く続いているように見えますので、特別な地域に対する対策をお考えであれば教えていただきたいですし、難しいというのであればどう難しいのかご意見があればお聞かせください。

(建設部)

建設管理部で発注している工事と言いますと、総合評価を多く行う形で実施しております。

す。ただ、多く行うにしてもマンパワーなどいろいろな必要な部分がありますので、なかなかすべてを行うということにはならないところがございますが、総合評価は他の地域よりは多く取り組んでいる実態であります。しかし、総合評価で行いまして、技術評価の部分とさらに価格という部分もありますので、なかなかそれがうまく行くかというのは難しい部分があるかと思いますが、総合評価を少しでも取り組みたいという方向で行っている状況でございます。

(吉岡委員長)

総合評価を行っても、評価項目の立て方と各項目に割り振る点数をどうするかによって、いろいろな影響があって難しいところだと私も思っていますが、多少パターンを変えるなど発注者側でも何か工夫をしていただきたいと思います。

(蟹江委員)

発注者側も受注者側も負担になるところもあるというのは存じ上げていますので、おやりになる範囲で有効に、意図どおり動くように引き続きご検討をいただければと思います。

(吉岡委員長)

件数が多いので全部の工事についてそうするととてもできる話ではないので、年に何件かは異例の試みをなさるとか、何かしないとパターンが固定化してきているのが、双方にとってあまりプラスに働いていないのではないかと思います。これは、道だけの問題ではなくて、国や札幌市でも同じような悩みを持っておられることだと思いますし、名案がある話でもないと思います。国や札幌市よりもいいアイデアを出していただいて、道らしい独自性を出していただけるといいかなと思います。今のが悪いというわけでもありませんので。

(2) その他報告事項について

(吉岡委員長)

それでは、次に「その他報告事項」についてご説明してください。

(事務局及び出納局)

(資料2に基づき説明)

(吉岡委員長)

今のご説明にご意見などございませんか。

(肘井委員)

1月5日付けの質疑応答の追加については、委員会の議論になったところですが、最後のなお書きに「この事例による談合情報に限らず、」ということを加えていただいて、1月5日に出されて3ヶ月も経っていませんので、事例は難しいかもしれませんが、対象先がこの件を真摯に受け止めるということ言えば、追加の事例があることは強さだと思いますので、この点を心していかれてはいいかなと思います。

(齊藤委員)

1月5日付けで出納局が作られたものは、非常にいいことだと思います。第2回の委員会でも話がありましたけども、やはり情報があつたときに情報のポイントを外さず、談合情報があつたときに事情聴取のポイントといいますか、焦点を絞っての対応をしていかな

いと、結局、ただ事情聴取をやっているんですねということで終わってしまいます。ここに記載されているように、そのたびにポイントで問題になることは、個別の内容に即して聴取項目を追加することとさせていただきますということや、さらに今回のように新たに提示していかなければならないこともあると思いますが、そのようなことを継続していけば、いい制度になっていくのではないかと思います。

(出納局)

談合情報が入ったときに、私どもの方にも談合情報を伝達してもらうことにしましたので、私どもから助言できることがあれば、対応した質問を一緒に考えていきたいと思いません。

(吉岡委員長)

談合情報の取扱いは難しいかと思いますが、今後ともよろしくお願いします。

(吉岡委員長)

話が戻って恐縮ですが、先ほどの入札契約執行状況の話に戻りますが、4ページの一番上で条件付き一般競争入札の件数が、建築4件、土木2件の計6件となっていて、今までは年間で1、2件程度と少なく、今年度は多いと思いますが、何か要因はあるのでしょうか。

(事務局)

これまでは、一般土木のトンネル工事など1、2件でしたが、今年については、建築工事で4件発注がありまして、この部分が例年より多いかと思いません。

(吉岡委員長)

この件に関しては、事前に事務局の方に整理していただいたものがありまして、建築の4件が札医大の関係の工事になり、例年と違うパターンとなっていると思いません。

条件付き一般競争入札は、いくらからですか。

(建設部)

20億2000万円以上からになります。

(吉岡委員長)

そうすると、1工区が対象になって、ほかは条件付きにしないでいい工事になるのでしょうか。

(建設部)

いえ、一つの建物で、全体トータルが20億2000万円を超えると対象です。

(吉岡委員長)

それでは、こちらはすべて条件付きの対象となる工事のようですね。入札参加の状況を見ると2者ずつになっていて、合計4社が2者、2者に分かれて、2つの工事の入札に参加している状況ですが、こういう区分けになる理由があつての工事なのでしょう。

(建設部)

ございません。

(吉岡委員長)

さらに加えて申し上げますと、一番金額の高い1工区の落札率が99.5%で極めて高いし、他に比べても高い。先ほどご報告いただいた平均値からも。これだけの金額でこのパーセントとなるとかなり高い落札率ではないかと思われませんが、その辺は何か見積上算出しやすい工事だったなどあるのですか。

(建設部)

逆だと思います。建築の場合は見積もる物が多いので、類推することは我々の方でもできないと思います。大手しか入ってこられないものですので、精度がかなり上がっているのではないかと思います。総合評価の結果のため、何とも私どもも・・・。

(吉岡委員長)

こちら側が推測するしかないと思いますが。
大手企業は、最近、算出の精度が上がっているのでしょうか。

(建設部)

その辺は、何とも言えないですが・・・。
推測ですが、この発注時期に労務費と材料費が非常に上がった時期だったことは事実でした。我々も危惧していたのが、落札するのかどうかというのが、非常に危ぶまれた時期でもございました。

(吉岡委員長)

この規模の工事で、入札に参加できそうな企業というのは、まだあることはあるのでしょうか。

(建設部)

あります。道外の企業も道内に支店があれば、すべて参加できますので、ご承知のとおり建築工事では公共工事や民間工事も含め技術者の不足が原因かと思われれます。

(吉岡委員長)

これも推測ですが、1工区と4工区、2工区と3工区で同じ入札の参加者となっていますが、何か考えられる要因はありますか。例えば工期の関係ですとか。

(建設部)

工期は、一緒です。ただ、工区の分け方が、四角い物を、H型のような形を1、2、3、4と分けていますが、その関係かどうかはわかりません。

(吉岡委員長)

縦に1工区、4工区とか。

(建設部)

4角に切ったわけではないので、形が形なので、それを見て判断されたのか、施工しやすい方に動いたのかはわかりません。

(吉岡委員長)

このような結果を見たら、いいのかという気がしないではないですが、そういう意味で先生方にもご覧いただいた上で、何かご質問でもあればと思います。

(蟹江委員)

これは、教育研究施設だし、比較的大規模で独自に見積もりしないとならないものがあるもので、当てにくいといえますか、数字がばらつきやすいものだったのだらうと思いますが、それにしても、ずれ具合がいいところなんですよね。

(吉岡委員長)

接近した金額になっているので。

(吉岡委員長)

札医大の工事は、まだあるのですか。

(建設部)

ございます。

(吉岡委員長)

どのくらい。

(建設部)

教育研究施設は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ棟ございます。また病院の増築工事もございますので、大きいもので4棟ございます。これも10階建てですけども。

(吉岡委員長)

何年くらいにわたって行うのですか。

(建設部)

札幌医科大学の整備ですが、平成23年に札幌医科大学整備構想を北海道で作成しまして、現在手狭になっているのと耐用年数が経過していますので、平成24年度から平成32年度まで9年間に渡って現地建て替えを計画しております。今回の教育研究施設Ⅰですが、こちらは平成25・26年に西19丁目の駐車場に体育館とリハビリ実習棟と保育所を建設いたします。体育館ができた時点で、西17丁目に立っている体育館を解体して、そこに教育研究施設Ⅰを建設するというもので、現地建て替えて、壊しては建て、壊しては建て、9年間で教育研究施設Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、それと大学管理棟というものもあります。そしてプラスして、附属病院、こちらは既存の附属病院に増築する形で予定されております。すべて終わるのが平成32年度の予定となっております。

(吉岡委員長)

27年度もあるのですか。

(建設部)

27年度は、保育所を作った後保育所を解体し、その場所に教育研究施設Ⅲを平成27、28年で、既存の病院がありますが、その西側に増築棟、こちらは3年間で建設する予定となっております。

(伊勢田委員)

組み合わせが2パターンしかなくて、必ずどちらか、負けた方が別な方で勝つという組み合わせになっている、偶然だとは思いますが・・・。

(蟹江委員)

これは、総合評価と書いてありますが、入札前には配置予定技術者をフィックスして出

さなければならぬものですね。1工区と4工区は同じ組み合わせで出ていますが、二つに札を入れるということは、ぜんぜん違う技術者のセットを用意しなければならないというですね。

(建設部)

そうです。

(蟹江委員)

監理技術者と主任技術者、それぐらいは届け入れといいますが、名前を指定してくると思いますが、それを違うセットでやっているということですか。

(建設部)

はい、そうです。

(蟹江委員)

技術者の評価も総合評価の評価点の中に入っていますか。

(建設部)

はい、入っております。

(吉岡委員長)

とりたい工事にいい評価点の技術者を・・・。

(蟹江委員)

当てるといことは戦略的にあり得えますね。ただ、全部価格で決まっている。価格逆転は起きていない。価格要素が効いているようには見えないということですね。

(伊勢田委員)

一般論として、このくらいのJVを組んでいっしょるところというのは、3つの工事にエントリーするというは、先ほど言いました技術者の対応力も含めて、かなり難しい工事ですか。例えば、1つのJVが今2つの工事にしか入札に参加していないですが、3つの工事の入札に参加するというは、かなり難しい工事なのですか。

(建設部)

会社の事情ですからわかりませんが、先ほど私が申し上げたとおり、この発注時期というのは非常に技術者不足が叫ばれていて、価格も、材料も労務も上がっている時期だということと言えます。ただ、営業活動にはいっぱい業者が来ておりました。それは、会社の判断で入札に参加しなかったのかなと思います。

(吉岡委員長)

継続工事なので、継続的に見ていかないと、というもあるかもしれませんが、発注社側がどこまで見られるかというもあるので、今の段階でどうこうということはいえないでしょうが、発注者側としては、注意していただくとか、関心を持っていただく必要のある工事かなと、継続する工事となるとなると。特に、27年度の情勢は、予算の関係で国の発注がたぶん減るでしょうから、そうすると、道の発注に対する関心度が高まるであろうと思いますし、情勢的には道の方も発注者側の負担も増えるかなという気もします。なので、大変ですがよろしくお願いします。

(蟹江委員)

一般土木の2件について、土木工事で、総合評価でやられていて、落札しているのは必ずしも価格ではないようですが、これは総合評価による価格逆転が起こった例なのでしょうか。

(建設部)

そのとおりです。

(吉岡委員長)

こういうのも、総合評価のどの項目で逆転したのかなどというところを見ていくとわかるのでしょうか。そういう見方で入札監視をするというのも一つかもしれませんね。開発局の入札監視は、そういう形でチェックをしています。

3 閉会

(吉岡委員長)

それでは以上で入札監視委員会を終わりますが、事務局の方から何かございますか。

(事務局)

この委員のメンバーによります委員会も今回が最後になりますので、総務部次長の辺見より委員の皆さまにご挨拶を申し上げます。

(次長兼行政改革局長)

(次長兼行政改革局長挨拶)

(事務局)

これで委員会は終了いたします。

(了)